

# 障害特性に合わせた「コミュニケーション」について考えよう！

車のフロントガラスに初霜がおりた1月16日に第187回障害者地域生活支援研究会が開催されました。今回のテーマは『障害特性に合わせた「コミュニケーション」について考えよう ～視覚障害教育の現場を通して～』です。



今回の発言者は、福岡県立北九州視覚特別支援学校 校長 吉松政春さんです。吉松さんからは教育者として、また、お一人の視覚障害当事者として、お話を頂きました。

最初は、「総論的視覚障害者と盲学校の現状」「視覚障害者の実態」と題して、DVD とパワーポイントのたくさんの写真の資料を交えて視覚特別支援学校をご紹介頂きました。

視覚特別支援学校は幼稚園・小学部・中学部・高等部専攻科に分かれ、現在は35名の生徒さんが在籍しており、幼児・児童の人数より、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の免許取得のための高等部専攻科理療科に通う30代40代の中途障害の方が多のが特色だそうです。また、一口に視覚障害と言っても千差万別。症状によっての見え方の違いや、視覚障害の方が学校等でも使用している、特徴的な福祉用具や便利グッズも合わせてご紹介頂きました。



視覚障害のある方の支援、同行援護される時のモットーは、  
♪より安全に、♪より速く、♪より美しく！

続いて、「視覚障害者の支援」についてお話頂きました。“視覚障害は情報障害である”とも言われ、視覚に障害のない人と比べて、情報量が数万分の一にしか満たないとのことでした。しかも「足りない情報が何なのか、その足りない情報はどのようにすれば手に入るのかが分からない」とのことでした。視覚障害ではない私たちが、どれだけ視覚情報に頼って生活しているかをあらためて考えさせられるお話でした。

参加された方より「コミュニケーションのポイント」について質問があり、吉松さんより「一概に視覚障害といっても、障害の程度等に個人差があるため、「わからないことは直接 本人に聞くことが大切！」困っているような人がいれば勇気を出して声をかけてもらいたい。ただし、「自分の出来ること、出来ないことをきちんと伝えることも重要」とのことでした。

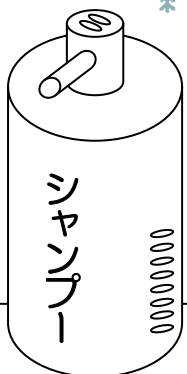
視覚に障害のある人も、ない人も便利に使える製品が身近にあるよ。

例えば、シャンプーのフタとボトルの横についているギザギザに気がついていかな？！リンスにはついていないよ。

これなら、視覚に頼らなくても、触ればわかるね♪

こんな風に障害や能力の如何を問わずに使えるデザインのことを“ユニバーサルデザイン”っていうんだよ。

障害があるって特別なことじゃないんだね。



この他、トーマス・J・キャロル著「失明」の中から『失明により得るものは何もなく、多くの能力を喪失するが、それらはリハビリテーションにより補うことができる』という言葉と「失明による20の喪失」をご紹介頂きました。

吉松さんには2時間という長丁場をおひとりでお話頂き、ウィットに富んだ楽しいお話で、笑い声あふれる支援研で、楽しく興味深く“普段の”視覚障害のある人についてお話を聞くことが出来ました。ありがとうございました。

支援研では今までも障害当事者の方のお話を伺う機会を設けてきましたが、支援者がどんなに熱く障害について語りあっても、当事者抜きでは「机上の空論」でしかありません。当事者の生の声だからこそ、支援者が気付かされることがあるのです。そして支援者という立場を離れた時に、同じ人間そして友人としてコミュニケーションを図っていかれたらいいのではないかなあ、と思いました。

本日の参加者は37名。内13名の新規の方にご参加頂きました。ありがとうございました。



けんたん

※こちらの議事録は  
北九州市障害者自立支援協議会の  
ホームページでもご覧いただけます。  
<http://kitakyushu-net.shien-c.com/>



しえんちゃん

